

山口県でアサザの第二番目の産地見つかる

南 敦

アサザが山口県で一番最初に見つかったのは柳井市余田の堀川で1977年(昭和52年)10月30日であった。堀川は幅約6mでシログワイ・サンカクイ・ヒルムシロ・マコモなどと混生している。川は沼状で水流はわずかである。最近では川床の改修・掃除などでアサザが減少し、絶滅が心配されていたのである。

昨年(1984年)7月~10月、山口県立柳井高等学校で開放講座(生物)が開かれ、筆者が担当したが、そのとき受講者に“近辺の珍しい植物”としてアサザもお見せした。ところが、その後、受講者の一人、私立柳井学園高校教諭、内山由子先生が柳井市黒玄ダム上方の柳井市立水源地にアサザらしいものがあると筆者にお話された。

1985年(昭和60年)3月7日、筆者は内山先生のご案内で柳井市黒杭の柳井市立水源地〔5万分の1地形図：岩国左下〕を見に行った。確かにアサザは水源地の県道の東側の小部分(50m×100m)に半分以上も密生していたのである。ある場所の水面にはどうしてかわからないが、かなり多数のアサザが浮いて集っていた。アサザについてのことやまわりにどんな水草があるかなどは今後暖かくなって調べるつもりである。今回見つかった柳井市立水源地は8年前に見つけた堀川とは約4kmしか離れていないが、非常に多数生育していただけに喜びもひとしお大きかった。

末筆ながらのご案内をいただいた内山由子先生に厚く御礼申しあげる。

・参考文献 南敦：柳井市の植物(一) 柳井市郷談会誌第二号(1977)。

山口県でほぼ92年ぶりに見つかった

ヒメコウホネ

南 敦

山口県におけるヒメコウホネの記録は山口市宮野に於いて二階重楼先生が1889年9月23日採集の標本が国立科学博物館に入っているのみであった(岡国夫ほか編・山口県植物誌1972)。ところが、1981年6月、宇部短期大学教授、岡国夫先生が山口市吉田郷の平清水八幡宮のすぐ隣りの東側にある2つの溜池で自生のノハナショウブの調査中に見つけられた。二階重楼先生の発見以来ほぼ92年ぶりである。しかも、この2つの溜池には非常に多数生育している。

なお、“趣味の山野草No.43(1984年2月号) 山草お国自慢43 山口県 写真・文・岡国夫”にヒメコウホネ

の写真と文が載っている。

筆者は1984年10月に山口女子大学名誉教授塩見隆行先生のご案内でその場所に行き、標本を採ることが出来た。現在、栽培もしている。2つの溜池には大群生し、ジュンサイ、クロモなどを混ぜている。秋期ではあったが多数開花していた。この採集した標本で、重要な点を記載すれば次のとおりである。根茎は径10~12mm。葉の裏面中央脈上には短毛が全く見られない(岡国夫先生は下側、筆者は上側の溜池から採集したヒメコウホネを調べた)。葉柄は円柱形で中実である。ヒメコウホネについて他の文献では「葉裏の中央脈上に短毛が密生する」としてあるので、山口市吉田郷のものは“毛なし型”ということになるであろう。

ヒメコウホネについて色々ご教示いただいた岡国夫先生とご案内をいただいた塩見隆行先生に厚く御礼申しあげる。

文献リスト

<1984—(4)>

- 草薨得一・水田多年生雑草の繁殖特性の解明と防除に関する研究. 雑草研究 29: 255—267.
- 高山真幸・菅 洋. 水田多年生雑草ヒルムシロの生理生態学的研究. 第4報 鱗茎の伸長と鱗茎形成の光周反応の種内変異. 雑草研究 29: 278—284.
- ・—————. 同 第5報 除草剤に対する感受性の種内変異. 雑草研究 29: 285—288.
- 帖佐弘至・都甲 潔・山藤 馨. ジャジコモにおける電気的バンド構造. 九大工学集報 57: 813—820.
- 筒井貞雄. ツクシカンガレイの新産地. 福岡の植物 No. 10: 213—216.
- 那須孝悌・松江実千代. 海生単子葉植物アマモ属の花粉形態. 大阪市立自然史博物館研究報告 37: 17—24.
- 原田市太郎. 水草. 北海道の自然 No. 24: 86—91.
- 安井明美・小泉英夫・堤 忠一. ホテイアオイ (*Eichhornia crassipes* Solms) 根部による溶液中の鉛、銅およびカドミウムの吸着(ホテイアオイの根部を用いる溶液中の金属の除去および回収—1—). 日本食品工業学会誌 31: 443—449.
- Ikusima, I. Aquatic macrophytes. in “Lake Biwa”(ed. S. Horie): 303—311, Dr. Junk Publ.